

国際セミナー「鉄道整備と沿線開発」
国土交通省 岡西康博 国際統括官 来賓挨拶

ご紹介をいただきました、国土交通省国際統括官の岡西でございます。本日、タイ運輸省ソラポン鉄道局長、アーコム前運輸大臣、パイリン前運輸副大臣をはじめとする多くの皆様のご出席のもと、運輸総合研究所主催による「タイにおける鉄道整備と沿線開発に関する国際セミナー」が盛大に開催されますこと、心からお慶び申し上げます。

ここバンコクは、世界で有数の大都市圏であり、また、交通渋滞緩和や環境問題への対応のため都市鉄道整備を進めてきた、ASEAN 地域をリードする都市だと考えています。私も今回バンコクを訪問する機会を頂き、立ち並ぶ高層ビルや伝統ある街並み、世界各地から訪れる観光客による活気ある街の様子を目にし、その発展を改めて実感したところです。

我が国は、都市鉄道整備に関するタイの取り組みを 1990 年代より継続して支援してきました。現在では、新たな都市鉄道マスタープラン（M-MAP2）の策定、新路線レッドラインの整備、バンスー駅周辺開発など、多くのプロジェクトで協力を進めています。我が国が強みとする「質の高いインフラ」がタイのさらなる発展に貢献できるよう、日本政府・国土交通省として引き続き努力してまいります。

また、先ほどソラポン局長からもお話しがありませんでしたが、都市開発の将来像に目を向けますと、国連が掲げる「持続可能な開発目標（SDGs）」にもあるように、環境に配慮した持続性の確保が重要な要素です。また、これについてもソラポン局長からお話しがあつたように、イノベーション、IT の進展もありまして自動運転車や MaaS の登場など、人の移動と暮らしを支える都市のあり方は大きな変革期を迎えています。我が国もこのような変革期を迎え、都市鉄道と都市開発について見直しをしているところです。都市鉄道整備がかなりの程度進捗しつつあるバンコクでも、さらなる発展を見据え、アクセシビリティに配慮して他の交通モードとのスムーズな接続や、鉄道駅を軸とした沿線開発を意欲的に進め、IT の進展を踏まえた公共交通をベースとした持続可能な都市を実現することが必要になってくると考えます。

そういった意味でも、政策研究大学院大学の森地教授、タイ運輸省のソラポン鉄道局長をはじめとする専門家の皆様のご参加の下、開催される本日のセミナーは、バンコクにおける鉄道整備と沿線開発を切り口として、将来に向けた都市の抱える政策課題について日本とタイの関係者が共に考え議論する良い機会となると確信しています。

本セミナーにおいて、有意義な意見交換が行われ、日本タイ両国の鉄道分野における協力関係がさらに強固になることを期待し、私の挨拶とさせていただきます。

以上